

## 第16回 木曾川上流自然再生検討会 委員意見

項目	委員	委員からの主な意見(議事要旨)	対応状況/対応方針案 <sup>注)</sup>	
(1)報告事項	1) ワンド等の水際湿地の再生 (木曾川・揖斐川)	近年の気温上昇に伴う水温上昇と動植物への影響について、調査結果等はあるか。	◎生物調査時においてワンドの水質を簡易に把握しているが、気温上昇の影響把握のための調査は実施していない。過去からの月1回の水質調査、水質の基準地点での連続監視結果を活用し、水温変化の実態を把握し、ワンド環境との関係を確認する。	
		夏場の高水温ではなく、冬場の高水温が翌年のイタセンパラの再生産や個体群サイズに影響する可能性もある。		
		河床の低下につれて、全体的な水位標高の低下傾向や河道内の氾濫原の冠水頻度の低下傾向が続いている。このような状況で、半分自然の営力を使った地盤の再生というものを目指していくという方向性でよい。掘削を面的に行うほうがよい。	◆ご指摘を参考に、三ツ柳地区において施工方法を検討し、整備計画を提示(資料-3 P.12)。	
		ワンド毎の水質や底質の違い(例えば底質では砂や泥の成分、堆積の厚み等)とイタセンパラ生息に関連があるのではないか。	◇水質や底質に着目して、イタセンパラの生息環境としてのワンドを評価している。植物片や粘土分の堆積によって、イタセンパラの産卵母貝となる二枚貝が生息できなくなることが分かってきたところである。	
		ワンドと流水部との間に高低差ができると、流入する土砂の内容に変化が生じる可能性がある。	◇対策箇所では、流水状況を考慮して盤下げの高さ等を決めている。上流に堆砂している土砂等の下流への還元方法や、流水部で深掘れの対策などは、今後ご指導いただきながら検討する。	
		これまでは約200mピッチの定期横断しかデータがなかったが、面的に周辺の状態を取られるようになってきたので、それらのデータを用いて平面解析や水理解析を行い、より細かい分析をお願いしたい。	◎ご指摘に沿って今後の分析を進めていく。	
		揖斐川のワンド再生で盤下げを行うのはよいと考えるが、実施するのであれば、施工後の土砂堆積の状況をモニタリングしたほうがよい。	◆揖斐川でワンド再生を行うにあたって、次年度のモニタリング計画を見直し、土砂堆積を把握するための調査内容を追加(資料-3 P.41)。	
		2) 緩流域環境の再生 (杭瀬川)	-	-
		3) 緩流域環境の再生 (伊自良川)	-	-
		4) コアジサシの繁殖状況	貴重種情報記載につき取扱注意	樹木伐開により礫河原を整備した場合、人や車が入らないような対策をしたり、シェルターなんかを置くような対策も実施してもらえるとよい。
河川敷の車に、コアジサシが繁殖しているから乗り入れをご遠慮してもらえように、啓発の意味でパトロールカーで周知してもらいたい。	◎パトロールでの呼びかけは難しいと思われるので、地域の合意を得られれば、繁殖期間中は一定区画を侵入禁止にする等の対策を検討する。			
温暖化が進行している中で、コアジサシの繁殖する期間が、若干後ろにずれるとか、反対に前にずれる可能性はあるか。	◇(大塚委員より回答)コアジサシの繁殖が、温暖化の影響で8月までずれ込むということはない。非常に短い期間に巣立つことしかできないので、初めの頃に出水すれば問題ないが、6月に出水して繁殖場が流されたら、その年はその後に繁殖できない。			
コアジサシについては、河道内のピンポイントの場所ではなく、流域全体での生息を考えていくべきである。堤内地の駐車場にコアジサシが飛来した事例を紹介してはどうか。	◆既往調査における堤内地の営巣地確認位置を記載(資料-3 P.32)。なお、令和6年度は現地調査計画時に大塚委員にヒアリングを行ったが、堤内地の営巣地の情報は得られなかった。			
5) 流水環境の確保 (南派川)		緊急3か年の対策で樹木伐開をして礫河原が増えたのであれば、礫河原を維持して河原に依存する植物だけでなく、コアジサシの営巣も考えてはどうか。	◎本川の滞筋の河床低下が進む中で、南派川には増水時にもほとんど流入しない状況になっているので、掃流力によって礫河原が維持されることはないと考えている。今後は、河道掘削や樹木伐開等の維持管理において、礫河原の維持方策を検討する。	
6) オオサンショウウオ対策		オオサンショウウオについて、今後自然再生計画に取り込むのであれば、自然再生として何をするのかの整理が必要である。	◆オオサンショウウオが好む緩流域を創出するための整備方針を検討している段階であり、対策を検討するための事前調査結果を提示(資料-3 P.34~36)。	
(2) 次年度のモニタリング計画(案)		環境省のレッドデータに記載のあるチスジノリとオオイシソウが、根尾川の支川である <sup>貴重種情報記載につき取扱注意</sup> で確認されている。オオカナダモやカナダモの類の生育によるチスジノリへの影響が懸念される。木曾三川上流ではどのように考えているか。	◎岐阜国道事務所や三水川の管理者である岐阜県とも情報共有しながら、必要に応じて対策を講じていく。	
		木曾川中流部のワンド等の水際湿地の再生で行う水位ロガーによる連続観測時に水温も観測してほしい。	◎水位ロガーによる連続観測は実施しないこととなったため、水温については既存の観測データを活用して変動を整理する。	

注)◇:第16回検討会当日に回答が済んだ事項、◆:対応状況(対応済みまたは対応中)、◎:今後の対応方針

第16回 木曾川上流自然再生検討会 委員意見

資料-2

項目	委員	委員からの主な意見	対応状況/対応方針案 <sup>注)</sup>
(3)その他			
樹木伐開にかかる猛禽類調査	-	-	-
その他	永山委員	木曾川中流部でのワンド再生が数年後に終わる予定になっているが、ここで終わるとこれまでの努力が水の泡になるので慎重に検討していただきたい。	◆自然再生計画の見直しにあたって、事業を5年間延伸する方向で検討している(資料-3 P.2)。
	森委員	木曾三川は充実した自然再生を行っていると思うが、流域治水という観点を取りいれると、これまでの自然再生計画では不足する点が生じ、見直しを考えざるを得ないと思う。全体の枠組みとしての方向性を考えてほしい。	◎今後の自然再生計画の見直しの参考とする。
	森委員	現状のエコロジカルネットワークのあり方について、うまく機能しているかについて検討してほしい。行政の主導的立場の人が参加するようなシンポジウムや、木曾三川流域で先行している事例としてどのような取り組みを行っているかの情報を持ち寄る場を設けるのも一案である。	◎木曾三川流域生態系ネットワーク推進協議会等において、今後の取り組み内容を地域の関係機関と連携して進めることを検討する。
	森委員	近年グリーンレーザーによる測量や空中写真撮影等の精度が向上しているため、基礎データを整理しておくことも重要である。	◎自然再生による効果等を見る上で必要となる測量データ等を明らかにしたうえで、基礎データを整理する。
	森委員	気候変動が注目されているので、長期的な連続観測データをもとに木曾三川の水温変動をみてはどうか。	◎水温変動は様々な生物に影響を及ぼすと考えられるため、既存の観測データを活用して長期的な変動を整理する。

注)◇:第16回検討会当日に回答が済んだ事項、◆:対応状況(対応済みまたは対応中)、◎:今後の対応方針